

学習到達状況調査結果の分析・考察

1 国 語

(1) 調査結果の概要

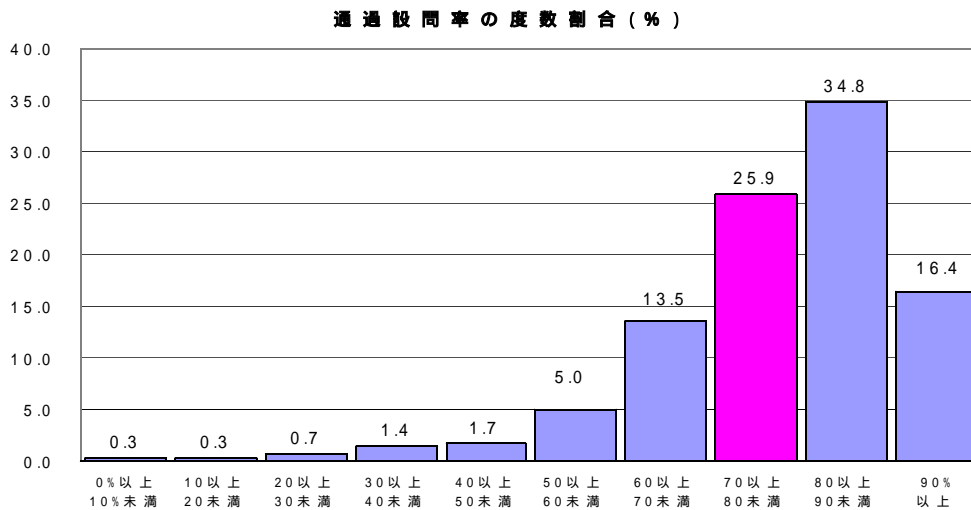
	受検者数(人)	平均通過率(%)	通過設問率が70%以上の児童(%)
国 語	1896	77.9	77.1

おおむね良好

- ・ 大切なポイントに気を付けて話を聞くこと。
- ・ 説明文や物語文の内容を理解すること。
- ・ 漢字を正しく読むこと。
- ・ 言葉の意味を理解することや接続語を使うこと。

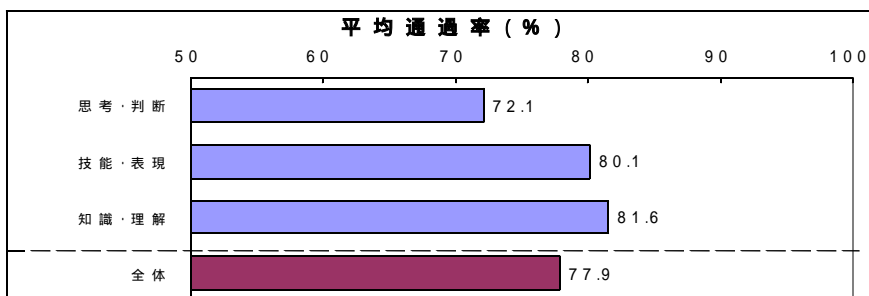
不十分又はやや不十分

- ・ 理由を挙げて自分の意見を記述すること。
- ・ 文章中の段落や場面が文章全体で果たしている役割や相互の関係を考えながら読むこと。
- ・ 漢字の部首に関する知識や漢字を正しく書くこと。



国語では、平均通過率が 77.9 %と高く、これを度数割合のグラフで見れば、通過設問率が 70 %以上の児童が、77.1 %いる。全体の形が平均通過率の含まれる度数域よりも右よりの山の形であることから、基礎的・基本的な内容は、全体的に定着していると考えられる。

(2) 学力観点別状況の分析・考察・指導のポイント



「関心・意欲・態度」

- ・学習実態調査をみると、国語が好きかという問いに対して、肯定群の割合は、約 60 %である。しかし、「好き」と答えた割合は、20.9 %にとどまっており、4 教科の中で一番低い。授業の中で、新鮮さや新しい発見、言葉を学ぶ楽しさが実感できないと、子どもたちは興味・関心をもって授業に臨めない。指導内容と指導方法の見直しと工夫が求められる。

「思考・判断」

- ・叙述に即して場面を読み取る力が弱い。教材の内容によっては、場面の状況について詳しく読み取る学習活動も必要である。

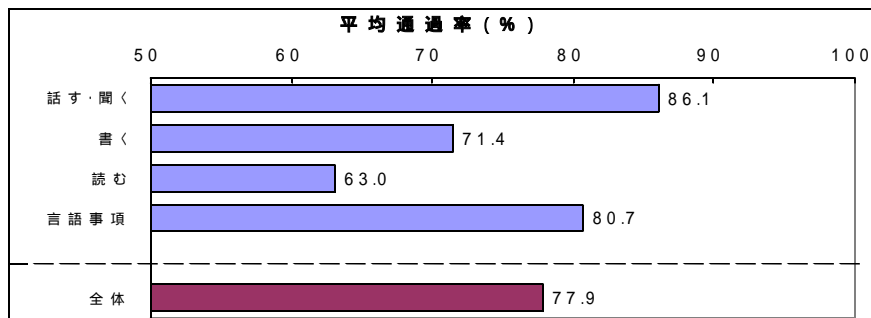
「技能・表現」

- ・「目的や意図に応じて書く」「考えたことを筋道を立てて書く」「効果的に表現する」というねらいに沿った指導の見直しが必要である。

「知識・理解」

- ・接続語や生活の中でよく使う言葉については、正しい知識をもち、使うことができている。今後さらに、文章に対する興味・関心を高めたり、語彙を増やしながらか表現力を高めたりする指導が必要である。

(3) 学習領域別状況の分析・考察・指導のポイント



「話すこと・聞くこと」

- ・スピーチや発表する機会が多くなってきているが、目的や意図に応じて話す力を国語の中で育てていく視点を持たなければならない。
- ・整理して示されれば、大切なポイントに着目して聞き取る力は身に付いている。また、メモを取る活動についても抵抗は少ない。今後は、聞くポイントが話すポイントでもあることに気を付けさせながら、話の内容を的確に聞き取り、大切な言葉をメモにとる指導が必要である。

「書くこと」

- ・構成を考えて自分の考えを字数制限の範囲内でまとめる力は不十分である。目的や意図に応じて、筋道を立てて書く指導を計画的に位置付け、育てていくことが大切である。

「読むこと」

- ・説明文では、文章中の個々の段落の役割や段落相互の関係を読み取り、判断する力は弱い。接続語の働きに着目させるなどして、文章構成を考えながら読む指導が必要である。
- ・物語文では、場面の展開が読み取れていない現状から、多読させる機会の充実を図る必要がある。

「言語事項」

- ・漢字を読むことはよく身に付いているが、書く力や言葉についての基礎的な理解は不十分である。個々の児童の習得の状況を十分に把握し、適切な指導を積み重ねていくことが必要である。

(4) 設問別の分析・考察・指導のポイント

問題番号		出題の内容	評価の観点1			評価の観点2	通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解			
一	1	聞き取り				話す・聞く能力	89.5	<p>放送による聞き取り問題であり、話し手の意図を考えながら話の内容を聞くことと、事象と感想、意見などを区別し、目的や意図に応じて書くことができる。</p> <p>聞き取り問題の内容把握は、整理して示されれば大切なポイントに着目する力は身に付いている。生活科や総合的な学習の時間を中心に、聞いたことや取材を通してメモを取る活動を行う機会が多いことから、その成果が出ていると考えられる。</p> <p>放送を聞きながら、メモをとる際に全文を書こうとする児童が多い。大切な点に着目し、要点を押さえたメモの取り方の指導が必要である。</p>
							77.2	
	2					話す・聞く能力	90.5	<p>取材の仕方について、事前の準備が大切であることや心構えについては理解していると考えられる。</p>
	3	知識・理解	71.4	<p>内容も表記の仕方も不正解となった児童が、25.2%いることから、理由を明らかにして自分の考えを短くまとめる力を付ける指導のあり方について考える必要がある。また、内容が適切であった児童が71.4%いることから、表記上、留意することについての指導の充実を図っていく必要がある。</p> <p>「生活文」や「日記」の指導によって、自分の経験を書くことはできているが、意見文を筋道立てて書いたり、短くまとめたりする経験が不足している。字数制限をして書く指導も必要である。</p> <p>スピーチや発表をする機会も多くなってきていることから、その中で自分の考えをまとめて原稿を書く指導をしていくことが大切である。</p> <p>「目的や意図に応じて書く」「考えたことを筋道を立てて書く」「効果的に表現する」というねらいに沿った指導の見直しが必要である。</p>				
二	1	説明文				読む能力	83.9	<p>目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。</p> <p>段落の内容について読み取ることはできているが、誤答を選んだ児童は、漠然とした理解にとどまっており、段落の要旨を十分に読み取っていないと考えられる。</p>
	2						75.1	

問題番号		出題の内容	評価の観点1			評価の観点2	通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント	
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解				
三	2	A	物語文			知識・理解	86.2	<p>文脈から適切な語を選ぶことができる。</p> <p>Cの問題で、「すすくと」を選んだ児童が17.7%いる。設問の前後の文章を根拠とせず、「生える」という言葉から、「すすくと」という言葉を連想して、解答したのではないかと考えられる。</p> <p>日ごろから色々な副詞に触れさせ、語彙を増やすとともに、その言葉から得られるイメージをふくらませて読んだり書いたりする指導が大切である。</p>	
		B					86.9		
		C					76.0		
	3					読む能力	75.7	<p>叙述に即して、場面の移り変わりや情景を想像しながら読むことができる。</p> <p>前後の文脈やそこで使われている言葉の意味を十分に吟味し、場面の状況を読み取ることができていない。</p> <p>「イ」を選んだ児童は、「ゆがむ」「ひきつった」と解釈したのではないかと考えられる。</p>	
四	1		言語事項			知識・理解	97.6	<p>漢字を読むことができる。</p> <p>文の中では類推して読むことができる。また、日ごろよく目にする言葉はよく覚えている。</p>	
							90.6		
							97.6		
							96.9		
	2						知識	60.9	<p>漢字を書くことができる。</p> <p>「借りる」の誤答は、32.2%、「季節」の誤答は、33.9%である。無回答の率は、4問中3問が10%を超えている。漢字を書くことに意欲的に取り組む指導の工夫が必要である。</p> <p>漢字の書き取りは、細部に着目させることが必要である。「とめ」「はらい」「はね」に気を付けるなど、正しく書かせる指導が必要である。</p> <p>形が似ている漢字、同じ読みの漢字、同じ部首の漢字などをグループに分けて違った視点から漢字を認識させるなど、多面的に漢字をみる指導や漢字に対して興味を持てる指導の工夫が必要である。</p> <p>習った漢字をふだんの生活で使う機会を与えていくことも必要である。</p>
						知識・理解	50.2		
						理解	70.9		
						解	68.7		

問題番号		出題の内容	評価の観点1			評価の観点2	通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント						
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解									
四	3	言語事項				知識・理解	98.4	文の中での使われ方によって意味が変わる言葉について、適切な意味を判断することができる。 児童にとって身近な例が取り上げられており、通過率は高い。						
							96.4							
	4					試					知識・理解	62.7	漢字辞典の正しい使い方や部首の名称を理解している。 無回答はないが、誤答の率が高い。特に、部首名は、正解であっても、「試」「達」ともに、画数での間違いが30%を超えている。 「部首」の扱いについては、単元に出てきたときに指導するのではなく、「部首」の指導をもとにして漢字の扱いに広がりを持たせる指導も必要である。 漢字辞典の使い方に慣れさせ、ふだんの授業の中で活用することが必要である。	
						達						58.0		
	5										知識・理解	94.4		接続語を正しく使うことができる。 誤答も無回答も少なく、よくできている。
												94.5		